

## 運転免許証の思い出

皆さんも車やバイクを運転するには、運転免許が必要なのは周知のことと思いますが、私の自慢は、同期の世代では、14才で運転免許を取得する最後のチャンスに、運転免許証を取得することが出来たことです。1960年(昭和35年)の運転免許取得改正で、1961年から原動機付自転車第1種免許が16才に引き上げられる寸前に、14才で運転免許証を手に入れることが出来たのですから、今でも宇土高校同期会(ろくご会)で自慢しています。

現在のカードみたいな免許証とは違って、黒い手帳みたいな表に「運転免許証」と金文字で刻印印刷してあり、とても高級な作りでした。14才といえば、まだ中学生で当時は坊主頭でしたので、宇土の実家の配達の手伝いでオートバイに乗っていると、よく近所のおまわりさんに免許証の提示を求められたものです。それだけ無免許の人が多かったのも事実ですけどネ!

他にはなんにも自慢できるものはありませんが、これだけは時間を戻さないと出来ない自慢できる思い出です。60歳過ぎた現在では、憧れのハーレーで阿蘇のやまなみハイウェイをツーリングするのが夢です。皆さんも是非行きませんか?

境屋 由夫(昭40年卒)



赤木 さよ子(昭五十五年卒)

2009東京鶴城会の余韻の残る、昨年6月のある日、サプライズな出会いがありました。息子の通う中学校のPTA歓迎会に出席した折の事です。同じテーブルで歓談していた息子の副担任のT先生が、「僕は九州出身なんですけど、めっぼう酒には弱いんですよ」とおっしゃるので、「九州のどちらですか?」とお尋ねすると、「熊本の上土です」とのこと、よくよく聞くと、なんと私の宇土高校の9年上の先輩だったのです。息子の成績がもう少しよければ、なお、良かったのですが。(苦笑)

身近に活躍されている宇土高校の先輩がいっぱいやるのがわかり、本当に嬉しく思いました。

サプライズな出会いがありました!

## 私のマラソン“熱中時代”



遠山 佳寿(昭五十五年卒)

私は、ダイエットのために走り始めて以来、マラソンの魅力に取りつかれてしまい、今ではフルマラソン大会にもよく出ています。普段は、もっぱら自宅近くの鶴見川を走っていますが、週末には電車で皇居にもよく出かけています。皇居は一周約5kmあり、アップダウンもあって、さながら「人生の縮図」を実感してしまいます。途中で信号はなく、随所に水道やトイレもあり、走るには最高の場所です。また、都会のど真ん中とは思えないほど緑に溢れ静かです。左手にお濠、右手に最高裁判所や国会議事堂を見ながら、半蔵門から桜田門へ向けて三宅坂を一気に走り下るコースは迫力満点です。日頃の仕事のストレスなど一気に吹っ飛ばしてしまいます。マラソンの最大の魅力の一つは、好きな時に、何処でも走れ、お金もかからないこと。おまけに健康もついてきます。みなさんも始めては如何でしょうか?



皆様、どうぞ一度、ふるさとのラーメンをご賞味ください。  
小野 徳子(昭五十五年卒)

「天草大王」は知っとんなはってですか?  
天草の地鶏をご存じですか?  
芦北町の株式会社宮本産業からラーメンが発売されており、その袋の裏面に記載されているコメントをご紹介します。

「熊本 地鶏ラーメン『天草大王』江戸時代から明治時代にかけて棲息し、幻と言われた日本最大級の地鶏、『天草大王』は、熊本農業研究所が十年の歳月をかけてようやく復活しました。人里離れた山間で飼育された『天草大王』から、濃厚な味わいでコク味のあるダシを採り、コクと旨みが濃厚な再仕込醤油使用のスープと芳醇な柚子胡椒入り調味料は、ちよっと柔らかい国産小麦使用の消化の良いストレートの細麺と相性のよいこだわりの逸品です。」

## 私のグルメレポート! - Vol.1

東京で味わえるふるさとの味

有楽町駅からすぐのオフィス街に懐かしい熊本の味を堪能できるお店があります。そのお店は、熊本出身の素敵な笑顔のママさんがいる「あづま」です。

天草から直送された魚は新鮮で味わう価値大ですし、その他にも馬刺し、辛子レンコン、一文字のぐるぐる等々懐かしさ満点です。熊本出身のお客さんも多く、お店で意外な出会いがあるかも……。お店にお願いすると、いきなり団子をお土産に買うこともできます。

・「あづま」 千代田区丸の内3-4-1 新国際ビルB1  
Tel. 03-3213-2728

銀座ソニービルの近くにある銀座熊本館に買い物に行かれた方は多いと思いますが、そのビルの二階で熊本の食材にこだわったランチが食べられるのをご存知ですか?

「ASOBI-Bar」というお店で、週替りで提供されるランチは熊本を思い出させてくれるお勧めの味です。夜は球磨焼酎を味わえるバーになります。壁いっぱい置かれた焼酎の種類には目を見張ること間違いなしです。ただ、閉店時間が20時となっていますので、早めに行くことをお勧めします。

・「ASOBI-Bar」 中央区銀座5-3-16  
銀座熊本館2階  
Tel. 03-3572-1261



塚原 直美(昭52年卒)

## 九州の良さを実感しました!

- ふるさと探訪、種子島・屋久島編 -

私は、仕事柄、全国出張が多く、仕事のついでにご当地観光をすることがあります。

私のささやかな楽しみ・目的は、全国47都道府県を訪れ、“出張貧乏”は覚悟の上で、ご当地探訪と郷土料理を堪能することです。昨年の7月、福岡出張の際、その日の夕方、博多駅から「つばめ」に飛び乗り、一路、鹿児島へ南下しました。途中、新八代駅で九州新幹線「つばめ」に乗り換え、すっかり快適な旅行気分になり、約2時間30分の九州縦断の“車窓の旅”を満喫しました。

翌日は、鹿児島港から高速船に乗って種子島、屋久島観光を堪能しました。実は、義兄(松橋町居住)が種子島出身で、一昨年、定年退職の後、種子島で単身暮らし(期限付)をしています。義兄の案内で、種子島一周を満喫し、屋久島では、樹齢約3000年の「紀元杉」(写真)に逢うことができました。人生80年と言われますが、屋久杉(樹齢1000年以上)の前では、小さな人間の存在を実感しました。

三泊四日の種子島、屋久島の観光でしたが、生涯の思い出となりました。両島はとも魅力的で、豊かな自然と地元民の温かさを肌に沁み込ませることができました。是非、一度、訪れてみては如何でしょうか。

坂崎 守寿(昭55年卒)

